



羅針盤

2016年度 第9号
都立豊多摩高等学校
進路図書部

2017（平成29）年2月15日発行

英語の学習の仕方について

2年生は3年0学期、1年生は2年生の0学期が始まりました。現2年生はとうとう来年のセンター試験本番まで365日を切ってしまいました。カウントダウンは既に始まっています。入試問題は皆さんの実力を測る問題なので、定期テストのように範囲がありません。おそらく受験勉強をしていると、いったい何をどこまでやれば合格できるのだろうかと不安ばかりが募り、すぐに途方に暮れることでしょう。そこで、大学受験勉強とはいったい何をどのくらい、またどのようにやれば良いのかイメージを持っていただくために、今回は、文系理系を問わず合格の鍵となる英語の受験勉強の仕方について伝えたいと思います。

大学受験勉強とは、そんなに特殊なことなのでしょうか。もちろん、答えは「いいえ！」です。受験勉強は、あくまでも普段の勉強の延長でしかありません。センター試験の問題は、高校の検定教科書の範囲から出題されることになっていますし、私立難関大学の問題もよくよく分析すれば、奇問難問の割合は約2～3割で、実は学校の教科書の内容が身に着いていれば、しっかりと点数が取れ合格できます。

皆さんは普段の小テストや定期テストを大切にしているのでしょうか。範囲が決まっている「小テストや定期テストで満点を取ってやるぞ！」と毎回、物凄い気迫で挑んでいるのでしょうか？ 実は、ここに勝敗が隠れているのです。範囲が決まっている小テストや定期テストができない人が、膨大な知識を上手く組み合わせ、応用を利かせて実力で解かねばならない受験問題をスラスラと解ける訳がありません。

「学問に王道なし！」 この一言に尽きます。時代がどんなにデジタル化しても、勉強そのものは、どうしてもアナログの部分が多いのです。コツコツ積み上げが無い人に、ミラクルは起こりません。一日でも早くこのことを悟り、今この瞬間から真剣に勉強を始めることです。

受験勉強には時間がかかります。普段努力を怠ってきた人が、ほとんどゼロの状態から難関大合格目指して英語の受験勉強を始めると、皮算用で約1000時間前後かかると言われています。その内訳は以下の通り：

- 1) 英単語、英熟語約6000語を繰り返し覚えるのに240～300時間
- 2) 英文法・語法系の問題集を習得するのに約150時間
- 3) 英文解釈の基礎的技術をマスターするのに約250時間
- 4) 英語長文約300本の読みこみ（過去問に挑戦する時間含む）に約300時間

つまり、受験まで残り300日あるとすれば、ゼロから始める場合は毎日3時間以上は英語の勉強に費やさなければなりません。人によっては、当然それ以上かかる場合もあるでしょう。小テストや定期テスト毎に確実に知識を身に着けている人は、英語にかかる時間が減るので、他の教科の勉強に時間がまわせることになり、ぐっと有利になります。

やらねばならない受験勉強内容（基礎トレレベルから応用の順番）

以下のA)～D)は、同時進行で行う。最初はA) B) レベルに時間が多めにとられるかもしれないが、A) だけやって、次にB) というのではない。A) からD) をバランス良く通年やらねばならない。

A) 単語力、熟語力の強化（基礎トレーニング）

教科書に出てくる単語は全て漏れなく覚える。（センター試験は教科書の単語だけで十分）教科書に加えて、何でもいいので自分のやる気が出る単語、熟語集一冊決めて、繰り返し覚える。お薦めは断然学校の小テストのために勉強している単語集。小テストに合わせて、その単元を毎回きっちり覚え、定期的に見直しをして記憶を定着させるのが結果的に最も効率よい勉強法である。
注意：英語の勉強と言えばターゲット等の単語、熟語の勉強と思っている人がいるが、大きな間違えである。この段階はあくまでも基礎トレレベルである。くれぐれも勘違いが無いように。この段階で英語の勉強が終わっている人には、桜は咲かない。

B) 文法、構文力の強化（基礎トレーニング）

教科書に出てくる熟語、文法、重要構文は全てマスターする。教科書は宝物である。高校3年間の教科書が全てスラスラ読めれば、それだけでセンター試験の高得点が取れる。教科書は暗唱できるほど音読をお薦めする。

英文法・語法の問題集（現2学年はVintage）を繰り返しやって完全マスターを目指す。

C) 速読、精読の強化

教科書でも問題集でも構わないので、速読と精読を1日一回必ずやる。最後は音読最低3回～5回。

D) 過去問

受験直前は自分が受ける大学はもちろんのこと、類題がある大学の過去問を解きまくる。過去問に挑戦するにはある程度実力がついていないと、あまりの難しさにすっかり自信を無くすという結果になる場合がある。試験の直前にそういう状態にならないように、夏休みまでには必ず志望校の過去問1年分を解き、自分の実力と実際の受験問題の難易度との乖離を理解し、受験対策の練り直しを図るのが大切。

最後にもう一点重要なポイントに触れたいと思います。受験勉強の際、周りに振り回され、すっかり自分を見失い、あれこれ手をだしては全て中途半端にする人をよく見かけます。巷（予備校や塾、参考書）で言っている“オリジナルテキスト”というのは、構成や順番がオリジナルなだけで、どれも書かれている内容は結局同じなのです。どれでも良いので、自分がやると決めたテキストを、まずは一冊完全に終わらせることです。（言うまでもなく、教科書マスターは必須の上での話です。）そうすることで、気持ちが落ち着き、受験勉強が波に乗るのです。行動あるのみ。己の敵は己のみ。御健闘をお祈りします。